Center for Redevelopment of Pollution-damaged Areas in JAPAN

# Libella

No.98
（隔月1日、年6回発行）

2007年
9月

## 被害に学ぶ

韓国からの司法修習生15人が7月5日、西淀川を訪れました。韓国で法律家をめざす人たちが、「公害被害と公害裁判を現場で学ぼう」と2000年に始まったもの。一行はあおぞら財団でビデオなどを使って公害被害の現状や財団の活動にふれるとともに、森脇君雄理事長と公害患者の永野千代子さんから被害体験を聞きました。

さらに、大野川緑陰道路、公害医療センター（写真）、歌島橋交差点など公害被害の現場をフィールドワーク。午後からは、西淀川大気汚染公害裁判について井奥圭介弁護士が解説しました。

●目次

**特　集　NPOとインターン、ボランティア**

〈SHITEN〉資源としてのインターン、ボランティア　山口　洋典　2
「安心」が広げるNPOへの参加　森本　純代　4
ようこそ、あおぞら財団へ　インターン、ボランティアとともに　鎗山善理子　6
私のボランティア体験　見つけてください 自分を活かす活動
松村暢彦／馬場明男／浅井真二／江川みえこ／南聡一郎　8

〈連載〉¿テ・グスタ・エスパーニャ スペインはお好き?⑧　田村　隆好　3
〈リレーエッセー〉風力発電所の適地を求めて　早川　光俊　10
〈忙中一筆〉「西淀川発世界へ!」　松井　克行　12

視点 SHITEN

環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

# 特集 NPOとインターン、ボランティア

NPOがまちづくり活動を進めるにあたって、インターンやボランティアの存在は“人財”であり、欠かすことができません。それぞれの立場で社会に対して、提案し行動することで、新しいアイデアが生まれ、活動が広がります。財団がインターン・ボランティア相互交流の拠点になればという思いから、実際の体験を通じた声を集めました。

## 資源としてのインターン・ボランティア

山口 洋典

### インターン、ボランティアの役割

私事になるが、筆者が初めてインターンとして現場に関わったのは、1997年のCOP3（地球温暖化防止京都会議）に向けて活動した「気候フォーラム」だ。実は2年前には震災ボランティアで社会に関わる意味と、社会から必要とされる自らの役割を認識していた。そこで、震災ボランティアで培った学生集団の組織化、コンピュータを用いた組織内の情報化と積極的な情報発信など、自らの経験を生かしつつ、温室効果ガス削減議定書が策定されるよう、全力で働いた。そして、COP3の盛り上がりと同じ時期に、大学と社会が連携した新しい学びのあり方を求め、黎明期であるNPOの人材育成の必要性を鑑み、筆者らは、大学コンソーシアム京都で日本初のNPO分野のインターンシップ・プログラム「NPOスクール」の開講に取り組ませていただいた。

そもそも、インターンとは、現場に貢献しながら現場で学ぶ人のことを指す。これは筆者なりの表現だ。例えば、文部省・通産省・労働省の「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方（1997・9・18）」は、「在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」学生がインターンであると定義づけている。一般には米国を中心に世界に拡がった教育と人材育成の制度がインターンシップであり、その制度によって現場に身を置く人をインターンと言う。

「NPOスクール」開講当初より受入先であったあおぞら財団には、当時から多くの学生ボランティアや、フィールドワークの学生がいた。それらの学生とインターンが異なるのは、期間限定の無給の非常勤職員として実践に携わることだった。無論、即戦力というわけにはいかない。そこで、スーパーバイザー（受入担当者）とコーディネーター（当時の筆者）がインターンと共に、積極的な意見交換を重ねていく形態を取った。このように、あくまで職員として組織内部に入り込み、限られた期間のなかで現場に貢献する姿勢は、単に自発的に現場に関わってくる熱意あるボランティアとは、緊張感や責任感といった点で性格を異にする。

### 組織と社会をつなぐ、のりしろとして

インターンは現場に貢献しつつ学ぶ、意義深い制度だが課題もある。最も深刻なのは、現場に「行く」ことが重視されているという点だ。インターンシップは、現場との緊張関係のなかで、使命や責任を認識して、組織的な活動に取り組むものである。しかし、大学とNPOとの関係構築にあたって、大学側の教育効果ばかりが主張されると、NPO側の人材育成効果は導かれにくくなる。ボランティアとは異なって契約関係に基づいて現場に入っていくインターンであるのだから、「現場への貢献」という姿勢に基づいて契約期間終了を迎えなければ、自身も組織も成長しえない。

現場にどう関わり、現場からどう撤退するか、この点はボランティアも同じく直面する問題だ。通常、関わることの自発性は重視されるが、関わらないことの自発性は組上に載らない。そこで、NPOにも「人事部」と「広報部」を置くことを提案したい。よく言われる話かもしれないが、企業では組織内の総合調整を図り、顧客との密接な関係構築を行う、これら両部署がNPOにはない。

NPOで人事部ができたとすれば、ボランティアやインターンのカルテづくりと管理を担ってはどうか。それによって、組織に必要な人的資源の、うまい調和と調達を導くことが可能となる。また、NPOに広報部ができたなら、組織に関わる人々を、新たなネットワークを創造する担い手として位置づけ、チラシの配布やblog(ブログ)の執筆を依頼しよう。組織の内と外をつなぐ「のりしろ」として、それらの人的資源を活用しない手はないからだ。

### 小さな工夫で見方を変える

現在、筆者は應典院という、一風変わったお寺で働いているが、インターンを「小僧」に、ボランティアを「モニター」と呼び変えて位置づけている。通常、インターンは実習生や研修生と呼ばれ、ボランティアには「さん」と敬称がつけられる。ことばが普及したからこそ、組織の活性化をもたらすために、インターンやボランティアといった一般名詞

クレイアニメのワークショップで
撮影助手をしている小僧（インターン）in 應典院

ではない、組織内部での固有な制度化や役割への命名を行ってはどうだろう。事実、「お寺でインターンをしたい」ではなく、應典院に小僧として関わりたいという若者が出てきた。小さな工夫で、地域や大学や学生からのNPOの見られ方も変わるし、NPOから見た地域や大学や学生への見方も変わる、そんな実感を現場で抱いている。

（やまぐち・ひろのり　浄土宗應典院主幹）

**連絡先**（TEL・ホームページ）

ーひとが、集まる。いのち、弾ける。呼吸する、お寺。ー 浄土宗 應典院
06-6771-7641　http://www.outenin.com

大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室
075-353-9106　http://www.consortium.or.jp/student/intern/index.html

## ¿テ・グスタ・エスパーニャ？

スペインはお好き？

田村 隆好

### ⑧路面電車が走るまち・セビリアへ

食べ物が美味しくなる秋に向け、いかがお過ごしでしょうか。私はというと、夏季休暇でめっきり人が少なくなった町で、鯵や鰯を買ってきては干物作りにはまっている今日この頃です。残念なことはアンダルシーアには秋の味覚さんまが存在しないこと、生魚を食べることが法律で禁止されていることです。

さて、ここSevillaでは路面電車の9月開業に向け、Estacion de Prado（バスターミナル）からPlaza Nueva（ヌエバ広場）までの開業区間で、毎日のように試運転が行われています。先日車輌が公開されていたので試乗しました。車内は広く障害者の方にも対応しているのですが、「座席が堅い…」スペインの交通機関全般に言えることですが座席がプラスチック製というのはいかがなものでしょうか…。

交通局の資料によると定員約250名の車輌を使い、5分間隔の運行体制で、回数券は市バスと共通、路面電車の走行区間は公的車輌・緊急車輌以外の車の進入が規制されており、線路の両脇には12m以上の歩行者・自転車専用道がもうけられています。観光客、買い物客が多い中心街の車規制は歩行者にとっては、とてもうれしいことです。またSevillaでは、市郊外から市内への慢性的な交通渋滞を解消するため、さらに数路線を建設中です。

ヨーロッパは航空会社が乱立しており航空券が非常に安いです。以前はR社やE社といった格安航空会社だけの取り扱いでしたが、現在は大手でも、ローコストの航空券を取り扱い始めました。例えばスペイン国営イベリア航空はパリ、フランクフルトなどヨーロッパ主要空港からスペイン、又はその逆で、全て込みの運賃で約10ユーロからという格安ぶり。インターネットで、利用日より早く予約すればするほど安くなるというシステム、大分先の休暇が決まっていて、ヨーロッパ旅行を検討されている方は、ぜひいかがでしょうか。

（たむら　たかよし）

# 「安心」が広げるNPOへの参加

森本　純代

ちょうど5年前の夏、私はあおぞら財団でインターンシップ生としてお世話になりました。その縁があって、今回「NPOとインターン・ボランティア」というテーマで寄稿させて頂くことになりました。

## 私とNPOの出会い

元々、私は中学生の頃から環境問題に関心がありました。というのも、当時、住宅街の空き地に産業廃棄物が堆く積み上げられ、その周辺住民が頭痛やアレルギー、喘息などで苦しんでいるという報道番組をテレビで見たからです。

当時は、ボランティアと環境問題が結びついておらず、ただ一心に「環境問題を何とかしたい!!」という強い気持ちだけがありました。

大学は環境問題について様々な角度から学ぶことができる社会学科に入学し、そこで「NPO／NGO」という存在を知りました。「環境問題というヒト社会で起こる課題の解決に関して、行政でも企業でもない、市民主体のNPO／NGOが今後、重要な役割を担う」という教授の言葉が頭から離れなくなりました。

しかし、その一方で、それほど社会にとって重要な役割を担うはずのNPO／NGOについて、私は全く実態がつかめずにいたのです。どのような人たちが、どのような手段でどのような活動を行っているのか？そして、どうすればNPOのメンバーになれるのか？そんなことを考えていると、偶然「大学コンソーシアム京都」が募集するインターンシップで「NPOコース」というものがあると知り、迷うことなく申込みました。

こうして私はあおぞら財団にインターンシップでお世話になることになったのです。

## インターンシップ・ボランティア経験

私のインターンシップでの実習は、あおぞら財団が所蔵する各種資料を整理し、データ化する作業でした。中でも、貴重な西淀川大気汚染公害の資料に触れ、公害患者の皆さんから直にお話をお伺いして学んだことは、今でも私の財産です。

学んだことを列挙すればキリがありませんが、市井に暮らす人たちの「こどもたち、ひいては将来、この街で暮らす人たちのために」という思いが導く行動力、そして課題解決のために、市民が一丸となって①学習し、②団結して③行動するというプロセスに「市民の力」を強く感じました。

そして、「街の課題を解決する主体は市民である」ということを学びました。

インターンシップ終了後も、イベントや講座などにお誘い頂き、ボランティアとして参加する機会にも恵まれ、あおぞら財団以外にも卒業論文の調査も兼ねて各地の市民運動・市民活動への参加が多くなり、「微力ながらも社会課題に取り組む市民

ボランティアの運営委員が支える道路環境市民塾

の方を応援したい」「力になりたい」と考えるようになっていました。

## そして今・これから

現在は、特定非営利活動法人きょうとNPOセンター（＊1）が指定管理者となっている京都市市民活動総合センター（＊2）に勤務しており、主にNPOや市民活動に携わる市民の裾野を広げ、NPO・市民活動を活性化するための情報提供事業に従事しています。仕事柄、多種多様な団体やボランティアの方とお話をする機会に恵まれており、私自身のボランティア観は飛躍的に広がったように思います。

しかし、日々仕事をしている中で感じることは、依然として「ボランティア」という言葉が持つ滅私奉公的、もしくは奇特な人が行う活動であるという印象がボランティアへの参加の敷居を高くしていることです。

「ボランティア」という言葉自体はもはや珍しいものではありません。しかし、実際にボランティアと呼ばれる活動にはどのようなものがあるのか、なぜそのような活動をしているのか、どんな人が行っているのか…など、ボランティアをしたことがない人にとってはまだまだ見えにくいものかも知れません。

これからボランティアに関わろうと思っている人たちに向けて、具体的な参加イメージを持ってもらえるような提案を、そしてボランティアを受け入れようとする団体にとっては、市民がNPOに参加するにあたって安心できるような環境整備や情報公開に、ともに取り組んでいきたいと考えています。

また、インターンシップを通じてNPOや社会課題の解決について学ぼうとする人たちに対しては、私があおぞら財団で受けたような学びや経験を習得できる機会を提供できるように取り組みたいと思います。まだまだ、力不足な点は多々ありますが、今後も精一杯頑張りたいと思います。

（もりもと　すみよ・特定非営利活動法人きょうとNPOセンター）

＊1：きょうとNPOセンターは、市民社会のさらなる発展を目指して事業（プロジェクト）型の活動を展開しています。市民が自立性を持ってゆるやかに連帯し、主体的に参画できる社会を築きます。
http://www.npo-net.or.jp/center/

＊2：京都市市民活動総合センターは、NPOやボランティア団体等による公益的な市民活動を、特定の分野や領域を超えて、総合的に支援するとともに、市民の交流及び連携の促進を図るための拠点施設です。
http://shimin.hitomachi-kyoto.jp/

わたしのおすすめ

**京都のNPO・市民活動が丸ごと この一冊に!**

「NPOに興味がある」
「私も何か始めてみたい」
そんな"想い"から
次の一歩を踏み出せる
ヒント満載です。
現在、好評発売中!!

A5判・374ページ／価格:500円（税込み）

詳しくは、
NPO・市民活動ハンドブック で検索!!

# ようこそ、あおぞら財団へ
## インターン、ボランティアとともに

鎗山善理子

### 「インターン」との出会い

あおぞら財団がはじめてインターンを受け入れたのは1998年の夏。（財）大学コンソーシアム京都がマッチングした2人の大学生です。この年以降はおかげさまで毎年、夏になると必ずインターンが職場にいる状況が続いています。インターンというと暑いなか、汗をかきながら自転車で外回りをしたり、フィールド調査をしたり、資料の整理をしたり、展示の準備をしている大学生たちの様子が思い出されます。強い日ざしと、ほてった顔の大学生たち。あおぞら財団の夏の風物詩です。

私自身も当時「NPOでのインターン」ということに興味を持っていました。すでに今の仕事に就いていたので、もう大学生ではありませんでしたが、同じく1998年の夏、米国のサンフランシスコにある「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」というNPOで約1ヶ月間のインターンを経験しました。住宅の建設をボランティアでおこない、低所得世帯へ住宅供給をしている団体です。翌年からは、あおぞら財団でのインターン受け入れの担当をしています（途中、他のスタッフと交代しながら）。

### インターンの実習内容は自分でつくりあげるもの

米国でインターンを経験して思ったのは、インターンシップというのは、インターン側が自分なりの目標をきちんと設定し、かつ受け入れ側に貢献できるような実習内容を、受け入れ団体と相談しながら、自分自身でつくりあげていかなければいけないということです。（もちろん、これは理想で、私自身がインターンとして、その通りできていたわけではありませんが…）

あおぞら財団に来るインターンも、関心のあること、仕事のスキルは千差万別なので、実習内容も千差万別になると思います。インターン一人ひとりに、「何をしたいのか」、「何ができるのか」を聞いた上で、その人のもつ目標に少しでも近づけるよう、受け入れ団体としてはサポートするよう心がけています。

インターンに来たことで、西淀川公害を知らなかった人が、公害による被害者の声に耳を傾け、自動車の通行量が多いため、まだまだ空気がよくなっておらず、ぜん息の子どもたちが増えていることを知ることは、あおぞら財団にとって、さらに広い意味では社会全体にとって、有益なことです。一人の大学生が経験したことは、大学に戻ってから、その後、社会に出てから、きっといろんな形でその人の思考や行動にあらわれてくると思います。

インターン期間終了後も、ボランティアとしてかかわってくれる人もいます。そんな風にして、どんどん輪が広がっていくことを願っています。

### ボランティアに支えられて

2006年11月から、あらたに毎月第一金曜日を「ボランティアの日」としました。この日に向けて、ボランティアで協力してほしい仕事内容を明記し、協力者を募集しています。この制度をつくる前から、あおぞら財団ではたくさんの人たちがボランティアで活動に協力していますが、「ボランティアの日」を設けることで、より多くの人たちが「あおぞら財団では、ボランティア活動を通して、何かやれることがありそうだ」と思って、行動をおこしてもらえたら幸いです。私たちスタッフは毎月第一金曜日に向けて、「こんな仕事もある、あんな仕事もある」と準備していますので、ぜひ、のぞいてみてください。

（やりやま・よりこ：研究員）

# 理事会、評議員会終わる

## 役員、評議員選任、藤江事務局長が誕生

第20回評議員会（6月2日）、第29回通常理事会（6月24日）が相次いで開かれ、2006年度事業報告書（案）、同決算報告書（案）を全員一致採択するとともに、新しい役員、評議員を選任しました。また、事業推進体制の強化を図るため、藤江徹研究員を事務局長に選びました。また、財団設立以来評議員を務めて頂いた、北元敏夫氏、高田昇氏が退任しました。

選任された役員、評議員は次の通り。

（任期は2009年6月30日まで、敬称略）

| | | |
|---|---|---|
| 理事長 | 森脇君雄 | |
| 専務理事 | 村松昭夫 | |
| 理事 | アグネスチャン | 植田和弘 |
| | 金谷邦夫 | 塩崎賢明 |
| | 高田研（新） | 新田保次 |
| | 早川光俊 | 宮本憲一 |
| | 森嶌昭夫 | |
| 監事 | 長瀬文雄 | 福本富男 |
| 顧問 | 進士五十八 | |
| 評議員 | 太田映知 | 岡田知弘 |
| | 神吉紀世子 | 小池信太郎 |
| | 辰巳致 | 壷井貞志 |
| | 津留崎直美 | 西村弘 |
| | 橋本孝子 | 永野千代子 |
| | 山崎義郷（新） | 松本嘉子（新） |
| | 中島晃（新） | 和久利正子（新） |

せみのぬけがらしらべ　ボランティアが大活躍

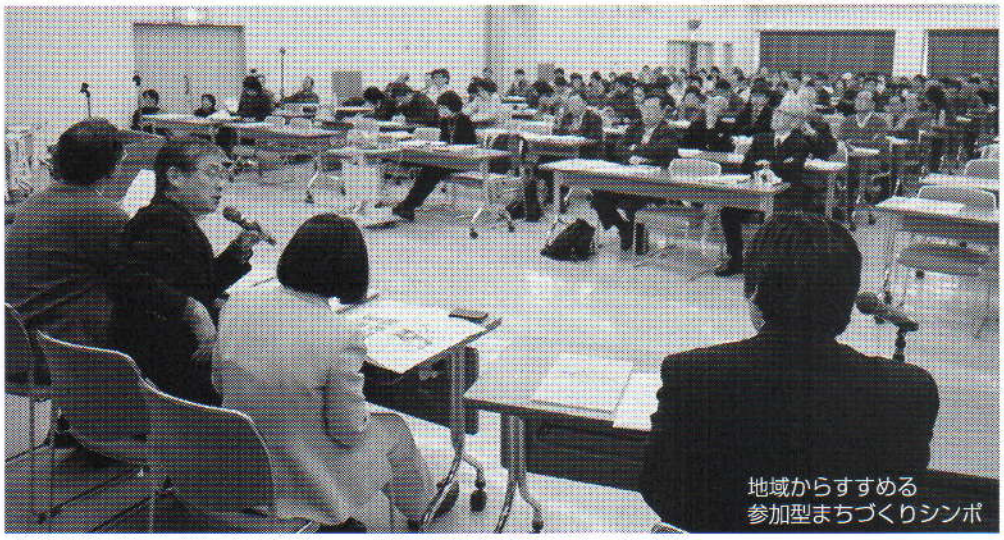
**あおぞら財団でのインターン受け入れのこれまで**

| 年 | 人数 | 大学等 |
|---|---|---|
| 1998年 | 2人 | (財)大学コンソーシアム京都(立命館大学、同志社大学) |
| 1999年 | 1人 | (財)大学コンソーシアム京都(神戸市外国語大学) |
| 2000年 | 1人 | (財)大学コンソーシアム京都(同志社大学) |
| 2001年 | 3人 | (財)大学コンソーシアム京都(立命館大学2人)／桃山学院大学 |
| 2002年 | 5人 | (財)大学コンソーシアム京都(立命館大学2人、仏教大学、龍谷大学)／桃山学院大学 |
| 2003年 | 8人 | (財)大学コンソーシアム京都(同志社大学、京都産業大学2人、龍谷大学2人)／桃山学院大学／奈良女子大学／龍谷大学大学院 |
| 2004年 | 5人 | (財)大学コンソーシアム京都(同志社女子大学、京都文教大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学)／桃山学院大学 |
| 2005年 | 6人 | (財)大学コンソーシアム京都(大谷大学、京都女子大学、龍谷大学)／桃山学院大学／奈良女子大学／近畿大学 |
| 2006年 | 6人 | (財)大学コンソーシアム京都(龍谷大学、立命館大学)／桃山学院大学／奈良女子大学／鳥取環境大学／龍谷大学 |
| 2007年 | 7人 | (財)大学コンソーシアム京都(同志社大学2人、立命館大学)／桃山学院大学／奈良女子大学／徳島大学／ニューヨーク州立大学 |

※大学を通じての受け入れ以外にも、個人での応募にも対応しています。どうぞ、ご相談ください。

●当面の「ボランティアの日」
10月5日（金）、11月2日（金）、12月7日（金）
時間＝9:30～17:30（応相談）／場所＝財団事務所

【お知らせ】あおぞら財団では、インターン、ボランティアを募集しています。詳しくは、財団のホームページをご覧いただくか、財団にお電話ください。（TEL:06-6478-5885）
インターン→　http://www.aozora.or.jp/intern.html
ボランティア→　http://www.aozora.or.jp/volunteer.html


地域からすすめる
参加型まちづくりシンポ

# 見つけて下さい 自分を活かす活動

## 研究の根っこを実社会にアンカーして

社会科学の研究者は、自分の専門分野を通して「社会の役に立ちたい」「社会をよくしたい」と思っている。また一方で、サロン化した学問領域に安住していれば、自分の好奇心は満足できるかもしれないが、社会の実態から乖離した、鮮度が低い研究を行うことになりかねない。そんな危機感から、自分の研究の根っこを実社会にアンカーし、そのアンカーと自分が研究アプローチという鎖でつながっていることを確認することが研究者として必要であると思っている。財団には、社会問題に直面している一人一人の現実とそれに対して奮闘する様々な人たちとの出会いがある、そんな魅力が研究者としての私を育ててくれていると感謝している。

（大阪大学大学院工学研究科准教授／松村暢彦）

## 駅周辺の商店街を“元気”にする

公害地域の再生は、公害の原因を排除するとともに、そこに住む人々が愛着を感じ、〝環境〟を誇れるまちにしていくことが大切だと思います。

今、駅周辺の商店街の人たちとNPOを設立し、商店街の活性や駅周辺の魅力づくりに取り組んでいます。車が普及していない時代には、駅を中心に公共交通サービス網がつくられ、自然に駅周辺の商店街も賑わい、コンパクトで環境にやさしいまちが形成されていました。クルマ型社会のまちの構造が形成される中で、〝環境〟を誇れるまちにするためには、まず、駅周辺の商店街が奮起し、商店街に人が集まる魅力づくりが、車に依存しなくても便利に暮らせ、環境にやさしいまちの構造を蘇らせる原点かと思います。

（Bsプランニング代表／馬場明男）

せみのぬけがらしらべ

# 私のボランティア体験

5年前から始まったロジャー・ハートの『子どもの参画』のべんきょう会に入って、初めは環境教育・開発教育の分野で学んだことを活かしたくて、集まるメンバーも話もおもしろくて、そして子どもたちと一緒に活動する企画を立てられるのがうれしくて活動していました。個人では同じような活動をしたくても難しかったと思います。

緑道しらべで。右端が江川さん

大気汚染しらべ

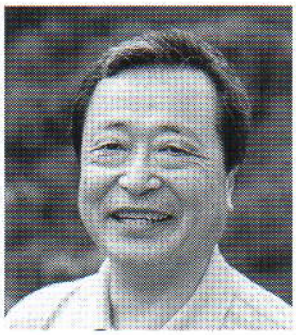
## 企画を立てられるのがうれしくて

最近はべんきょう会も事務局ができました。他のグループとのコラボレーションを推し進め、地域住民参画の支え手としての活躍を期待しています。

個性的で優秀なスタッフに関係者、ネットワーク、ノウハウ等ソフト面、会議室、資料室、資料等ハード面を社会資源として、地域住民とつながればと思っています。

（ファシリテーター・社会福祉士／江川みえこ）

## イントラネットでの出会い



定年退職が間近に迫り、退職後時間を有効に使い、何か社会に貢献出来る事が無いかと考えていた時、勤務先のイントラネットに「あおぞら財団」ボランティア募集の案内が転載されているのを読み、六月のボランティアに参加させて頂きました。

初回参加時、研究員の方から財団の活動等について詳しく説明をして頂き、月一回のボランティアだけでなく、色々な活動をされている事を知りました。そして、「自転車文化タウンづくりの会」「道路環境市民塾」に、参加させて頂く中で、多くの方々（年齢・職業）と交流を持つことが出来、大変うれしく思っています。

これからも、月一度のボランティアとともに、活動に参加していきたいと思っています。

（会社員／浅井真二）

## 自らを鍛えながら活動できる醍醐味

私は道路環境市民塾運営委員をさせてもらっております。この市民塾運営委員会の特徴は、なんと言っても運営委員会で毎度毎度激論を交わしてきたことです。毎回講座企画決定で非常に熱くエキサイティングな議論を交わしてきており、手弁当で集まったボランティア同士がこんなに熱心に議論を交わすのは市民塾ならではだと思います。市民塾は講座に参加してもらった人にまちづくり活動の手法を学んでもらうのが目的ですが、実は運営委員になるのが一番習得できます。学びながら、自らを鍛えながら活動できるのが、運営委員の醍醐味だと思います。私自身、市民塾の運営委員経験を通じて習得したことは多く、非常にやりがいのある活動だと思います。

（京都大学大学院／南聡一郎）

# ほっとニュース

## 西淀川道路連絡会開催

6月26日（火）、国土交通省近畿地方整備局、阪神高速道路株式会社、西淀川公害訴訟弁護団・原告団が参加し、第11回西淀川道路連絡会が開催されました。まず午前中は現地見学会を実施し、歌島橋交差点、国道43号佃西交差点、出来島交差点、大和田西交差点を回りました。午後は、区民ホールにて意見交換会を開催しました。国道43号出来島大橋のバリアフリー化や、歌島橋交差点の植栽や地下道の安全性への配慮、PM2.5対策などについて意見交換を行いました。

## 大阪市立西淀中学校の職場体験の受入

今年も西淀中学校から中学2年生の生徒たちが職場体験であおぞら財団にやってきました。6月15日、3人の女子中学生たちは緊張気味に仕事をスタート。チラシ折りや郵便物の発送作業、てづくりせっけんのラベル貼りなど、丁寧にかつ着実に取り組んでいました。環境学習教材のビデオを見て、身近な空気のこと、環境のことに理解を深めた様子が後日とどいた感想文からわかります。

## 四日市の再生まちづくりを提言

7月21日（土）、四日市市総合会館で「四日市環境再生まちづくり提言の集い」が開かれました。日本環境会議が2004年から取り組んできた、四日市の公害再生の政策提言の発表会が行われました。「公害がおわった」と四日市でも言われていますが、いまも公害患者さんが約500人いらっしゃること、大気汚染公害の原因企業の石原産業がフェロシルト問題を起こしていることなど、いまだに四日市では公害が終わっていないという報告がおこなわれました。経済、政治、社会など、様々な角度から分析した提言です。

集いで、公害再生に取り組んでいる「あおぞら財団（西淀川）」とみずしま財団（岡山県倉敷市）名古屋あおぞらセンター（名古屋市南部）の活動報告と意見交換が行われました。

# リレーエッセー

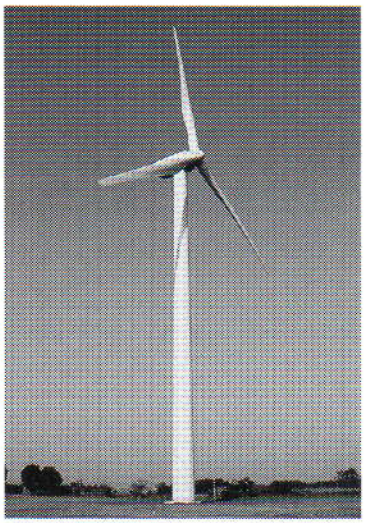
## 風力発電所の適地を求めて

早川　光俊

最近、風力発電所の適地を求めて和歌山、四国、兵庫、山陰などを走り回っている。地球温暖化の主要な原因は二酸化炭素であり、二酸化炭素は石炭や石油などの化石燃料を使うことによって発生する。地球温暖化を防止するためには、化石燃料の使用を減らすか、エネルギー源を化石燃料から再生可能エネルギーに転換するしかない。再生可能エネルギーでも、もっとも有望なのは風力発電で、ドイツは昨年末で2000万kWを越えた。原子力発電所約20基分を風力でまかなっていることになる。日本はまだ139万kWでドイツの15分の1に過ぎない。しかも、ドイツではその建設資金の大半は市民の投資である。市民が投資しても損をしない制度を採用しているからだ。一方、日本では約1300基の風車のうち、市民投資で作られたのは10基に過ぎない。

日本でも、年平均風速6m以上あれば投資回収可能である。しかし、克服すべき課題も多い。土地を借り入れて、運び込む道路があって、系統できる電線が近くを通っていて、大鷹などの希少種がいない、などの条件を満たす場所はそんなにない。また、風車の天敵である雷や、ますます大型化する台風への対応なども必要である。家族の理解も大切だ。鳥取に年5回も6回も通っていたときは、娘から「父さん、鳥取に兄弟がいるなら紹介してな」などとあらぬ誤解？を受けたりもした。

様々な困難はあっても、地球温暖化は人類の未来がかかった環境問題であり、チャレンジする価値はあると思っている。



市民風車"うなかみ"（千葉）

（はやかわ・みつとし　弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）専務理事、財団理事）

*このコーナーでは、財団の理事、評議員のみなさんの近況報告をかねた一言を紹介します。

## お知らせ

**矢倉海岸定例探鳥会**
（日本野鳥の会大阪支部との共催）
※9月から、毎週第1土曜日に変更になりました。
日時　9月1日（土）午前9時30分～
　　午後12時30分頃（現地解散）
集合　阪神電鉄西大阪線「福」駅
　　改札口午前9時30分
場所　矢倉緑地公園

**自転車まち巡りツアーイベント**
大阪のまちなかを、自転車で巡ります。あなたの知らない魅力に出会うはず。9／22カーフリーデー（車がない日）の関連イベントとして開催します。
日時　9月24日（月・祝）
　　午後1時～5時（受付12時～）
集合場所　中之島公園内広場
　　（天神橋下）
参加資格　15歳以上
募集人数　40名（先着順）
雨天の場合　小雨決行、雨天中止（当日午前9時に決定）
申込締切　9月18日（火）
走行ルート
①水の都を巡るコース
②都会のほっとスペースを巡るコース
③上町台地北部と歴史を巡るコース
④近代建築コース
参加費　500円（保険代・会場代）
持ち物　自転車、筆記用具等
※自転車のレンタルについては財団事務局までご一報を。
　（先着10名、1300円）
主催　自転車文化タウンづくりの会
申込　財団事務局まで。

## お礼

下記の方々から寄付・寄贈をいただきました。（2007年6月・7月）心から御礼を申し上げます。

**●図書・資料寄贈者**
（2007年6月・7月分　敬称略）
相川泰、香川雄一、樫本喜一、西口勲、増井忠幸、松岡弘之、山西良平、あいぽーと徳島、神戸大学文学部、交通エコロジー・モビリティ財団、日本共産党大阪市会議員団

**●寄附・寄贈者（敬称略）**
早川光俊、林久和、井奥圭介、森実千秋、上田幹枝、なにわ保健生活協同組合、辰巳正夫、㈲ファルマ・プラン、逢坂隆子、蔵本幸治、芝村篤樹、稲葉正、村松昭夫、北泊謙太郎、遠藤宏一、澤井余志郎、小池淳、新田保次、松村暢彦、上杉剛、是枝洋、松本剛一、㈱神戸製鋼所、三宅宏司、阪田健夫、㈱ジョイックス、遠地昭典、川崎美榮子

**●入会ありがとうございます**
（2007年6月・7月分　敬称略）
香川雄一、田中アヤ子、田中洋子、松本鋼一

## 事務局日誌

6月

1日（金）　ボランティアの日
2日（土）　西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
　　【番外編】高田研さんと「公害・環境教育」語る会
　　評議員会
3日（日）　大野川緑陰道路クリーン大作戦（参加）
4日（月）　全国公害被害者総行動デー（～5日、参加）
7日（木）　拡大事務局会議
　　第24回尼崎道路連絡会（参加）
　　第14回西淀川地域再生研究会
　　自転車文化タウンづくりの会定例会
8日（金）　広報会議
10日（日）　大野川緑陰道路世界陸上大会体感ウォーキング（参加）
11日（月）　鳥取環境大学講義（講師:林）
12日（火）　大阪経済大学講義（講師:林）
13日（水）　事務局会議
　　ecoまちネットワークよどがわ運営会議（参加）
　　大野川緑陰道路の教材づくり研究会
14日（木）　てづくりせっけん教室
　　道路環境市民塾運営会議
15日（金）　西淀中学校職場体験受入
　　2007年度第1回財団職員研修　講師:相川泰先生（鳥取環境大学）
16日（土）　アスベスト国賠訴訟1周年記念交流会（参加）
　　矢倉海岸定例探鳥会
　　菜の花プロジェクト愛東町視察（参加）
18日（月）　資料館定例会議
19日（火）　いずみ市民生協フードマイレージゲーム実施（講師:林）
20日（水）　事務局会議
22日（金）　子どもの参画勉強会
23日（土）　CASA地球環境大学講義（講師:林）
　　ESTステークホルダー会議（参加）
　　公開自主講座「宇井純を学ぶ」「宇井純さんを偲ぶ会」（参加）
24日（日）　高田研さんと「公害・環境教育」語る会Part2
　　第29回通常理事会
26日（火）　第11回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会（現地見学会、連絡会）
　　自転車文化タウンづくりの会イベントチーム企画会議
27日（水）　事務局会議
　　西淀川図書館で展示打ち合わせ
30日（土）　クボタ・ショックから2年
　　写真と報告でつづるアスベスト被害尼崎集会（参加）

7月

1日（日）　自転車まち巡りツアープレ
　　てづくりせっけん教室
2日（月）　第15回西淀川地域再生研究会
4日（水）　拡大事務局会議
5日（木）　名古屋港見学会（参加）
　　韓国司法修習生受入れ
　　独立行政法人環境再生保全機構評価会議（傍聴参加）
6日（金）　ボランティアの日
7日（土）　塩崎賢明教授の日本建築学会賞受賞を祝う会（参加）
10日（火）　事務局会議
11日（水）　ECOまちネットワーク実行委員会
12日（木）　自転車文化タウンづくりの会定例会
　　溝口重夫氏宅訪問（資料調査）
13日（金）　エコドライブ事務局会議
17日（火）　事務局会議
　　人権展示・資料ネットワーク総会（～18日、参加）
18日（水）　道路環境市民塾運営会議
　　アスベスト（石綿）国賠訴訟第6回弁論（傍聴参加）
19日（木）　第34回西淀川地域研究会
20日（金）　フードマイレージ教材化研究会
21日（土）　矢倉海岸定例探鳥会
　　四日市公害判決35周年を記念する四日市環境再生まちづくり提言の集い（パネラー:藤江）
23日（月）　資料館定例会議
24日（火）　大野川緑陰道路の教材づくり研究会
25日（水）　事務局会議
26日（木）　自転車マップヒアリング（佃西学童保育所）
30日（月）　子どもの参画べんきょう会
　　自転車マップヒアリング（いるか学童保育所）
31日（火）　事務局会議
　　大阪市保健所事業ヒアリング
　　自転車マップヒアリング（柏里学童保育所）

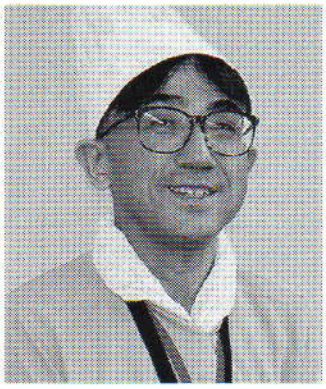
**【編集後記】**
猛暑がつづきます。夏休みを利用して中学生になった息子と一緒にヒロシマと大久野島の毒ガス資料館を訪ねました。戦時中、大量殺りくを目的に島は毒ガス製造に明け暮れました。毒ガスはアジアの他国に甚大な被害と犠牲を強いましたが、無防備に近い姿で製造に携わった人たちは今も後遺症に苦しんでいます。軍事機密で地図から消された島ですが、記憶からは決して消してはいけない事実です。（T）

『Libella』No.98　2007年9月号（隔月1日、年6回発行）
発行所　（財）公害地域再生センター（あおぞら財団）
編集人　上田敏幸
大阪市西淀川区千舟1-1-1　あおぞらビル4階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
http://www.aozora.or.jp/
E-Mail webmaster@aozora.or.jp
印刷所　あゆみコーポレーション
定　価　一部400円（郵送料込み）
会員の購読料は会費に含まれています。
郵便振替口座　00960-9-124893（加入者名　あおぞら財団）
乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

Bohchu Ippitsu
一忙筆中

松井（まつい）　克行（かつゆき）

1963年大阪府箕面市生まれ。1986年度より大阪府立高校教諭（地歴・公民科）。1993～2002年度まで西淀川高校勤務。環境教育の基礎固めに取り組んだ。2003年度より三島高校勤務。西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会のメンバーとして数々の教材を開発。参加型市民講座「道路環境市民塾」の運営委員も第1期より勤める。



# 「西淀川発世界へ！」環境教育教材を共に作って発信しませんか

## 原点としての「西淀川公害」教材創り

西淀川高校へ転勤した93年当時、既に社会科（翌94年度より年次進行で社会科解体）の科目「現代社会」で、週2時間の枠で「環境問題」の先進的学習が実施されていた。当時のカリキュラム内容は、①酸性雨などの「地球環境問題」、②琵琶湖―淀川―大阪湾の「水質汚染問題」（特に、有機物が浄水場で塩素と反応して生成されるトリハロメタンの発がん性が社会問題となっていた）を2本柱に、③「時事的テーマの環境問題」（「ゴルフ場の農薬汚染」等）で編成されていた。

「西淀川公害を教材化しよう！」。96年度に始めて「現代社会」を担当し、開始したのが、「西淀川公害」の教材化である。当時の教科書では、「四大公害訴訟」の記述の後、一気に「地球環境問題」へ飛躍した記述となっており、大気汚染公害についての記述が不十分であった。そこで、小山仁示著『西淀川公害』（1988年）や西淀川公害訴訟原告団＋弁護団著『手渡したいのは青い空』（1989年）の他、『判例時報』（1383号、1991年）から、「西淀川大気汚染公害第一次訴訟第一審判決」等の資料を入手し教材化を進めた。

毎年、担当教員間で試行錯誤を繰り返しながら、地道に教材創りを行った。例えば、地形図を基に、被告企業や国道、高速道路の位置を色分けするだけで西淀川の問題状況が視覚的に浮き彫りとなる。尼崎市の発電所や此花区の企業に挟まれ、国道や高速道路に貫かれた中に、工場と住宅が近接するのである。さらに「西淀川公害」の本質が見えてくる。「西淀川公害」は工場公害に加え、自動車公害という複合的性格を持つ、新たな公害訴訟（そして「和解」による解決）のリーディング・ケースとして位置付けられるからである。

## あおぞら財団との出会い

「西淀川公害」を生徒に実感を持って理解させるためには、効果的なビデオ教材が不可欠である。しかし皆無。そんな閉塞状況を打破できたのが、「阿倍野市民セミナー」における、傘木宏夫氏との奇跡的出会いである。当時、あおぞら財団で研究主任をされていた傘木氏を通じ、「複合大気汚染」（NNNドキュメント91）を入手できた。ビデオは「西淀川公害」の本質に加え、公害病患者さんたちの生き様や苦しみを伝える内容であり、以後の西淀川公害学習の主教材となった。

## 教材創りはボランティア？　天職？

1997～98年度に兵庫教育大学大学院で社会科教育を専攻しながら国際理解教育、開発教育、環境教育、人権教育、平和教育を包括したグローバル教育論を研究テーマとした。現職復帰後は、当時の財団研究員の片岡法子さんに誘われ、『つくってみよう身の回りの環境診断マップ』（2000年）、「西淀川公害における学習用パネル」（2001年）、『交通環境教育のすすめ―SCPブロックでみる地域環境の変化―』（2002年）の教材作りに関わった。2003年度から始まった「道路環境市民塾」では運営委員まで勤めさせて頂いている。2003年度より三島高校へ転勤し、同校では国際理解教育、開発教育を推進している。

本年度は、『フードマイレージを学ぶ―優しい暮らしづくりの実践　食と交通と環境　フードマイレージ買物ゲーム』の開発と普及に関わっている。楽しい限りである。実は、これらの活動をボランティアと考えたことは一度も無い。自然体で参加している。「その原動力は？」と問われて考えた。幼年時代に喘息性気管支炎でちょっぴり苦しんだ経験がある。小学生の時、学校で水俣病について詳しく学んだことがある。高度経済成長の中、開発され変容する箕面の自然とライフスタイルの変化を体験してきた。恐らく、そのような原体験が、公害教育、環境教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の教材学習創りへと自然と向かう原動力なのかもしれない。

「西淀川発世界へ！」環境教育教材を共に作って発信しませんか。決して強制ではありません。ボチボチ、楽しみながら、自然体で多くの市民が関わって、共に創るというプロセスが面白い！　参加者募集中です！